

## 永谷園グループ 環境・社会報告書

永谷園  
ニュース

業界初！植物性乳酸菌を使用した  
「1杯でしじみ70個分のちから みそ汁」に  
迫る！

# Top Message

トップメッセージ

## 創意と工夫で、 幸せで豊かな社会づくりに貢献してまいります

### ステークホルダーの皆さまへ

#### 社会の一員としての永谷園グループの役割

私たち永谷園グループは、創業以来、「味ひとすじ」の企業理念のもと、創意と工夫でおいしくて便利な商品を生み出し、幸せで豊かな社会づくりに貢献することを使命としてきました。

「幸せで豊かな社会づくりへの貢献」という意味では、ものづくり同様、次世代に住みよい環境を残していくことも、自らが属する共同体の中で良好なコミュニケーションを築いていくことも、永谷園グループの重要な役割であると考えています。従業員全員が創意と工夫を重ねて、社会の一員として私たちができるこ

とを一つひとつ真摯に取り組んでいます。

また、社会と共生できる企業グループであり続けるために、コンプライアンス、リスク管理を徹底し、企業の社会的責任を果たすことも重要だと考えています。私たちは、これからもあらゆるステークホルダーとの対話を継続し、社会と企業の持続的成長の実現に向けて皆さまと歩み続けます。

#### 食の安全・安心、環境にかける思い

永谷園グループには、永谷園ブランドの商品の製造を主に手がける㈱サンフレックス永谷園や㈱オクトス、

自社ブランドの商品を製造、販売している藤原製麺㈱、㈱サニーフーズなど、全部で8社のグループ会社があります。事業領域は多岐にわたっていますが、社会の一員として、人々の暮らしを豊かにしていきたいという思いは皆同じです。

中でも「食の安全・安心の確保」は、食に携わる者にとってすべての大本となるテーマであり、永谷園グループでは、経営方針の第一に掲げて取り組んでいます。昨年度、永谷園グループ独自の品質保証システム「NAFSAS」(ナフサス)を構築しました。グループ全体でナフサスに基づいた管理、運営を行い、より安全・安心なものづくりを推進していきます。

## 企業理念



株式会社永谷園 代表取締役社長

町田 東

また、環境保全活動は、持続可能な社会の構築に欠かせない取り組みです。グループ全体で本格的に取り組むはじめてからまだ日が浅いものの、一人ひとりが「環境問題へ前向きに取り組む社員」として自分の役割と責任を理解して、省エネルギーの推進、生産活動での温室効果ガスの排出削減など、様々な施策に取り組んでいます。

### 7回目の発行に際して

環境・社会報告書は、2004年度に発行を開始し、徐々に内容を充実させながら7回目の発行を迎えまし

た。たとえば、小さな芽が次第に葉を広げ、花が咲き、最初の実を結ぶところまでは成長したのではないかと思います。これからは、もっと大きくたくさんの実が実るように従業員一同一層努力してまいります。

今年の報告書は、皆さまからお寄せいただいたご意見をもとに、より分かりやすく、親しみやすいよう内容、体裁にも工夫を加えました。本報告書がステークホルダーの皆さまにとって永谷園グループへの理解の一助になれば幸いです。

永谷園の企業理念は、  
創業の精神である「味ひとすじ」です

筆・永谷 嘉男  
(株式会社永谷園 創業者)

味ひとすじ

### 「味ひとすじ」とは

- ① 創意と工夫で商品・サービスを常に考え、創り出すこと
- ② お客さまに実感、満足していただく「おいしさ」を提供し続けること
- ③ 食を通じて幸せで豊かな社会づくりに貢献していくこと

# 永谷園ニュース



※ 2010年9月15日時点のパッケージデザインです。

## ● オルニチンとは？

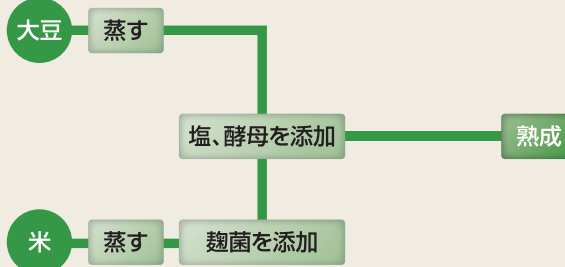
アミノ酸の一種であるオルニチンは、たんぱく質を構成しない遊離アミノ酸として細胞や血液中などに蓄えられています。オルニチンには様々な働きがあるとされており、身体のあらゆるところで私たちの健康維持に重要な働きをしているのです。一般の食材にはあまり含まれていませんが、しじみには比較的多く含まれていることが知られています。(しじみ 100g(約35個)あたり10～15mg程度のオルニチン含有量(永谷園調べ))

# 業界初！植物性乳酸菌を使用した「1杯でしじみ70個分のちから みそ汁」に迫る！

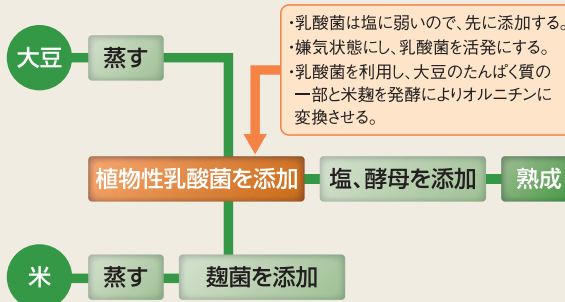
## 製造工程

植物性乳酸菌をみその製造工程で添加すると、大豆のたんぱく質の一部と米麴が発酵し、オルニチンになることを発見しました。この製法で作ったみそを「**オルニチンみそ**」と命名し、特許を出願しています。

### ● 一般のみその製造工程



### ● オルニチンみその製造工程



## 商品化までのプロセス

### ● みそ

通常、乳酸菌は塩に対して弱いため、塩分があると発育しません。しかし、塩分を下げると風味に難があるため、あらかじめオルニチンを生成させた後、みそに仕込んでいます。量産化にあたってはみそメーカーの協力を得て、実現可能になりました。また、乳酸発酵によりかなり強い酸味が出てしまうので、鰹のだしをきかせて味をやわらげ、飲みやすい味わいになるよう工夫しました。2009年9月に発売した後、予想以上の反響で注文が殺到し、品切れ店が続出。10月下旬～12月上旬頃まで販売休止となり、その後は供給量を大幅に増やしました。

### ● パッケージ

従来のみそ汁の外装は、安心感や温かみを感じるものが理想とされていました。しかし、新規性を打ち出すために、とにかく売り場で目立つことを心がけました。陳列実験を実施した結果、即席みそ汁の棚でほとんど使われていない黄色を選択。さらに、食シーンを明確にするため、パッケージに「お酒好きのお父さんに」というキャッチコピーや、裏面に「さわやかに目覚めたい人に」や「いそがしく働いている人に」と飲酒後以外の食シーンも提案しています。

## インタビュー



### 「1杯でしじみ70個分のちから」シリーズのきっかけは？

**熊谷：**偶然見つかった“オルニチンを作り出す乳酸菌”との出会いです。違う目的でアミノ酸の研究をしていると、たまたまキャベツの葉からオルニチンを作る乳酸菌を見つけました。オルニチンといえば、しじみ、みそとの相性がいいと瞬間的に浮かびました。



●永谷園 研究部  
熊谷 道正

**小川(美)：**現在の即席みそ汁市場をみると、具の種類や量での差別化は出尽くした感があり、スタンダードなメニューの徳用商品が売れ筋の中心となり、数年来同じような傾向が続いています。なかなか新しい付加価値のある商品が定着しないので、市場に広がりがありません。そこで、市場を活性化させるような新しい切り口の商品を出したいと思っていました。

### 本シリーズが売れ続けている理由は何かと思いますか？

**小川(菜)：**みそ汁のおいしさや健康感を両立できたからだと思います。機能面を強調しすぎると、どうしてもおいしさ感のないみそ汁になってしまいがちです。しかし、本シリーズは「しじみ70個分」にうまく健康感とおいしさ感が表現できました。

**熊谷：**みそ汁は健康とは切っても切り離せない食品。これまでも健康素材を添加した商品が登場してきましたが、なかなかヒットには結びつきませんでした。どれもみそ汁のイメージに合わなかったからでしょう。その点、しじみなら、誰もがみそ汁を思い浮かべます。まさに直球勝負でした。

### 今後の展望をお聞かせください。



●永谷園  
マーケティング企画部  
小川 菜穂

**熊谷：**オルニチンをもっと浸透させることができたらと思っています。

**小川(菜)：**本品は、ここぞというときに飲むものではなく、毎日摂って欲しい商品。多くの方においしさや健康を感じて欲しいですね。オルニチンの認知度を上げつつ、今後のメニュー



●永谷園 商品企画部  
小川 美朋

展開を視野に入れながら、まずは売り場での定番商品として確実なものとしていきます。

**小川(美)：**今、コンビニエンスストアでの即席みそ汁の棚はスープに押されて縮小傾向です。みそ汁回帰のきっかけになれば、と思っています。

### 「1杯でしじみ70個分のちから」シリーズで優秀ヒット賞を受賞



2009年9月に全国発売し、即席みそ汁市場では珍しい健康志向の機

能性を持つ付加価値商品として売上げを伸ばし続け「平成21年度(第28回)食品ヒット大賞」(日本食糧新聞社制定)を受賞しました。

今回は「1杯でしじみ70個分のちから」シリーズで優秀ヒット賞を受賞。前年の「冷え知らず」さんの生姜シリーズに続き2年連続、19回目の受賞となりました。

「友達にすすめた」「ケースで買いたい」などの嬉しい声も。発売以来メディアでも紹介され、「どこで売っているのか」「飲みやすい」「常備したい」と消費者からの声が通常の新商品より多く寄せられています。



## Contents【目次】

- 1 トップメッセージ／企業理念
- 3 永谷園ニュース：  
**業界初！植物性乳酸菌を使用した  
「1杯でしじみ70個分のちから みそ汁」に  
迫る！**
- 5 目次／編集方針  
**マネジメント体制**
- 5 CSR
- 7 コーポレートガバナンス／内部統制
- 8 コンプライアンス  
**社会の中で**
- 9 安全・安心のための品質への取り組み
- 11 お客さまとの関係
- 12 株主さまとの関係／  
情報コミュニケーション
- 13 従業員との関係
- 14 社会貢献  
**地球環境のために**
- 15 環境基本方針／推進体制
- 16 環境負荷の分析
- 17 環境中期目標
- 19 地球温暖化防止への取り組み
- 20 物流部門での取り組み／  
水資源保護への取り組み
- 21 廃棄物削減への取り組み
- 22 容器包装への取り組み
- 23 オフィスでの取り組み
- 24 環境マネジメント
- 25 環境会計／編集後記
- 26 会社概要／業績の概要(連結)

## 編集方針

本報告書は、永谷園グループを支えてくださる皆さま(お客さま、お取引先、株主さまなどの方々およびグループ従業員)とのかかわりを、より深くすることを目的として作成しました。

本報告書では、永谷園グループをよりご理解いただくために、永谷園グループが2009年度に取り組んだ環境保全活動内容や企業活動内容を幅広く紹介しています。

なお、本報告書の作成に際しては、環境省「環境報告書ガイドライン(2007年版)」「事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン(2002年度版)」および「環境会計ガイドライン(2005年版)」を参考にしました。

### ●報告対象組織

本報告書は、永谷園グループ(株式会社 永谷園および国内グループ会社8社)を報告対象としています。

なお、株式会社永谷園の取組みは、「永谷園」または事業所名のみで報告しています。

### ●環境パフォーマンス対象組織

(株)永谷園(茨城事業部・岡山事業部)、(株)サンフレックス永谷園(本社工場・泉工場・吹松工場・遠野工場・高坂製袋工場)、(株)オクトス、(株)ニシエイ(加工工場・海苔工場)、(株)花笠食品

※CO<sub>2</sub>排出量は、上記対象組織のほか、(株)永谷園全事業所、(株)藤原製麺(第1工場、第2工場、第4工場、第5工場、第6工場)が対象となっています。

※OA紙使用枚数は、上記対象組織のほか、(株)永谷園全事業所、(株)サンフレックス永谷園(フードサービス事業本部)が対象となっています。

### ●環境会計対象組織

(株)永谷園(本社・生産業務センター・茨城事業部・岡山事業部)、(株)サンフレックス永谷園(本社工場・泉工場・吹松工場・遠野工場・林ノ上工場・高坂製袋工場・総務部)、(株)オクトス、(株)ニシエイ(加工工場・海苔工場)、(株)花笠食品

### ●報告対象期間

2009年4月～2010年3月

※一部、当該期間外における取組みが含まれています。

### ●発行年月

2010年9月

### ●次回発行予定

2011年9月

## ステークホルダーの視点に立って、CSR活動に取り組みます。

### 永谷園グループのCSR

永谷園グループでは、日頃から大切にしている「正しく、正直に、そして、まじめに」の考えのもと、本業を通して社会や環境保全に対する責任を果たすことで、様々なステークホルダーの方々や社会全体との信頼関係を築くことが重要だと考えています。

そこで、永谷園グループでは、CSR活動を3つの大きなテーマに分け、さらにそれぞれのテーマごとに個別テーマを設定しました。大きなテーマの一つ目は「これまで生命線として取り組んできたテーマ」で、個別テーマには「品質・商品安全」や「顧客満足」があります。二つ目は「これまで基盤整備に注力してきたテーマ」とし、個別テーマに「環境」「コンプライアンス、リスク管理」としました。三つ目は「これからさらに意識して取り組むテーマ」で、「個人情報保護」「従業員満足、人権、雇用、労働安全」「コーポレート・ガバナンス」「社会貢献」を設定しています。

これら3つのテーマを、永谷園グループのCSR活動の柱である「CSRの定義」のもと、これからも取り組んでいきます。

今できること、すべきことを明確にすることで、活動を着実に成果として積み重ねていきたいと考えています。





安全・安心のための  
品質への取組み  
9ページ

お客さまとの関係  
11ページ

従業員との関係  
13ページ

株主さまとの関係/  
情報コミュニケーション  
12ページ

コンプライアンス  
8ページ

環境  
15ページ

社会貢献  
14ページ

コーポレート・ガバナンス  
/ 内部統制  
7ページ

これまで生命線として  
取り組んできたテーマ

品質・商品安全

顧客満足

これまで基盤整備に  
注力してきたテーマ

環境

コンプライアンス、  
リスク管理

これからさらに  
意識して取り組むテーマ

個人顧客情報の  
保護

従業員満足、人権、  
雇用、労働安全

コーポレート・  
ガバナンス

社会貢献

**永谷園グループ  
CSRの定義**

CSRとは、企業が経済・環境・  
社会などの幅広い分野におけ  
る責任を果たすことにより、  
様々なステークホルダーとの  
信頼関係を構築し、もって企業  
自身の持続的な発展を目指す  
取り組みです。



## コーポレート・ガバナンス

### コーポレート・ガバナンス体制

永谷園では、戦略策定・業務監督機能と、業務執行機能との分離を明確にするために、2002年6月から「執行役員制度」を導入しており、現行の経営体制(2010年6月29日現在)は取締役7名、執行役員6名(取締役兼務者を除く)、監査役4名(社外監査役2名を含む)となっています。なお、経営の健全性を高めるため、2010年6月開催の第57回定時株主総会において定款を変更し、取締役の任期を2年から1年に変更しました。また、執行役員は、取締役会で選任され、任期は1年となります。

取締役会は、月1回の定期開催に加え、必要に応じて随時迅速に開催し、法定事項のほか、特に重要な業務執行に関する事項について取締役会規程にもとづき決議しています。また、経営の円滑な意思決定機能を強化するため、各部門長から取締役に対して、業務の執行状況を報告するための業務部会を毎月開催し、さらに、随時各部門長が企画提案および情報提供を行うための会議を毎週開催しています。

経営のチェック機能については、永谷園では従来から監査役制度を採用しており、監査役会による経営監視に務めています。監査役は、取締役会その他重要な会議に出席するほか、永谷園の業務や財産状況の調査はもとより、グループ会社の調査も積極的に実施しています。さらに、会計監査人、内部監査部門との連携強化を図り、業務執行の適法性、妥当性に関する監査体制の充実に努めています。

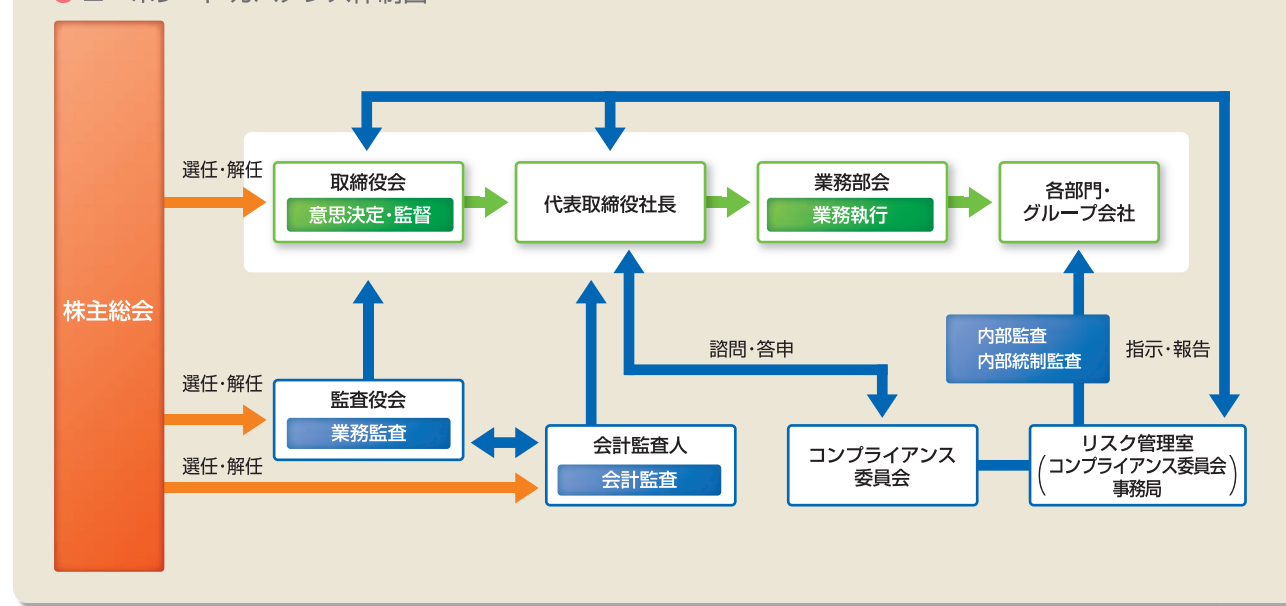
## 内部統制体制の整備・運用

「会社法」および「金融商品取引法」にもとづく内部統制の整備・運用・評価に関しては、社長が任命する内部統制推進者のもと、リスク管理室や各部門長および関連会社の内部統制責任者との連携、さらには内部統制の管理を目的として各部署に配置されたリスク管理者との協働により推進しています。2009年度も、全グループ会社8社に対して、「全社的な内部統制」と「決算・財務報告プロセスに係る内部統制」の整備内容の充実を図り、チェックを行いました。また、「業務プロセスに係る内部統制」と「IT(全般、業務処理)統制」の整備・運用チェックは、重要な事業拠点である永谷園に加え、一部「(株)サンフ

レックス永谷園」および「藤原製麺(株)」も対象とすることにより、内部統制体制の信頼性の向上を図っています。これらの結果、2009年度に引き続き2010年3月31日時点の評価も、「財務報告に大きな影響を与える重大な不備・欠陥はない」との判断に至っています。

2010年度も基本的には、2009年度同様の体制で臨みますが、信頼性をより高めつつ、効率的な整備・運用が可能な内部統制の在り方を追求します。なお、2009年度にグループに加わった藤原製麺(株)と(株)サニーフーズは内部統制体制のより一層の充実化を推進していきます。

● コーポレート・ガバナンス体制図







コンプライアンス

コンプライアンス体制

永谷園グループのコンプライアンス経営を維持するための体制の中心は、グループ全体のコンプライアンス担当取締役(永谷園・専務取締役)が委員長を務める「コンプライアンス委員会」です。この委員会が基本的な枠組みを考え、実行させる母体となっています。具体的な活動は、委員会の事務局である「リスク管理室」と事務局から任命された「コンプライアンス担当者」が担っています。コンプライアンス担当者は、各部署・各会社ごとに任命されており、現在は約50名が活動しています。

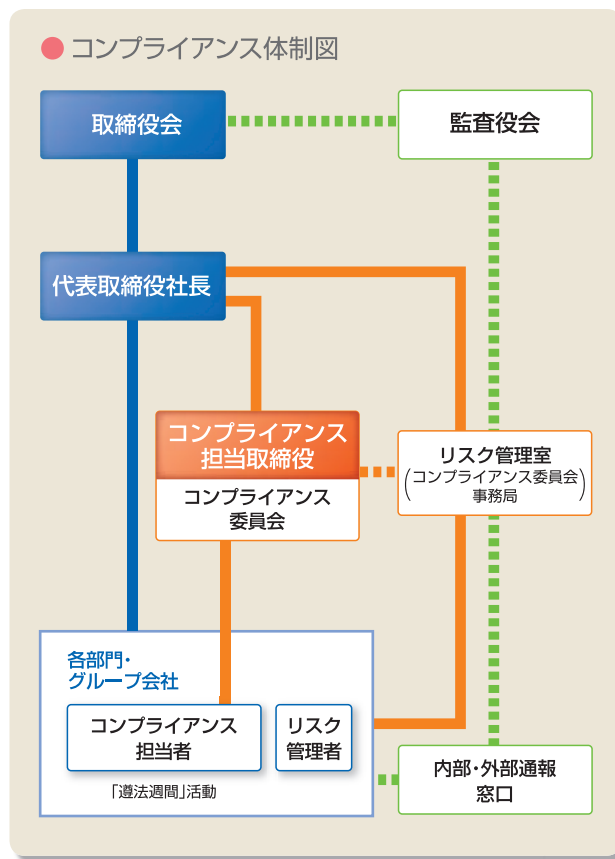
リスク管理室は、社長直轄組織として広い意味でのコンプライアンスに絡んだ3つの業務を行っています。

① **コンプライアンス委員会の事務局** 永谷園グループのコンプライアンス体制の維持・強化を図るため、コンプライアンス担当者とともに各種のコンプライアンス活動を実施しています。このなかでもっとも重視されているのが「遵法週間活動」です。これは、全従業員に配付されている「倫理綱要」を年に1回は皆で読み合わせをして確認し合ひましょう、という趣旨で始めたものです。

現在では毎年新たに配付される「(身近な)ミニ・ケーススタディ」も加わり、コンプライアンス担当者のもと、各部署・各会社10名以下の人数単位でコンプライアンスに関する話し合いが行われており、従業員のコンプライアンス意識の向上に大変役立っています。また、内部通報への対応もリスク管理室の業務です。当然通報窓口の一つにもなっています。

② **内部監査** 近年各種の企業不祥事が後を絶たず、「内

部監査」の重要性が極めて高くなってきています。現在は年に5~6件の監査とほぼ同数のフォロー監査(監査後、一定期間を経た時点で指摘事項の改善状況をチェックする監査)を実施しています。経営改善から小さなコンプライアンス違反の是正まで、いろいろな観点から経営をサポートする活動を行っています。



③ **内部統制業務** 「会社法」「金融商品取引法」における内部統制の整備・運用・評価業務を行っています。これは2008年度から加わった業務で、リスク管理室長が「内部統制推進者」を兼ねており、必要な各会社・部署に置かれている「リスク管理者」と協働して、内部統制の整備・運用に関して管理しています。

VOICE 身近で具体的なテーマを取り上げます

永谷園 リスク管理室  
藤木 望



コンプライアンス活動の一つである遵法週間で使用する「ミニ・ケーススタディ」は、2004年から作成され毎年内容を変えて今年度で7シリーズ目となります。

これは、従業員の皆さんにとって知っておいた方が役に立つようなテーマを、毎年4~5件程取り上げて、分かりやすく解説したものです。

今までに取り上げたテーマは、セクハラ・パワハラ、社内情報・個人情報管理、内部通報制度(相談窓口)、サービス残業、など様々なものがあります。特に最近では、職場内で実際にありそうなケースの中から、従業員の皆さんに自分自身や職場環境を振り返って考えていただけるような内容のものも取り上げるようにしています。

今後は、さらに「役に立つ」ミニ・ケーススタディを目指して、より身近で具体的なテーマを積極的に取り上げていこうと考えています。

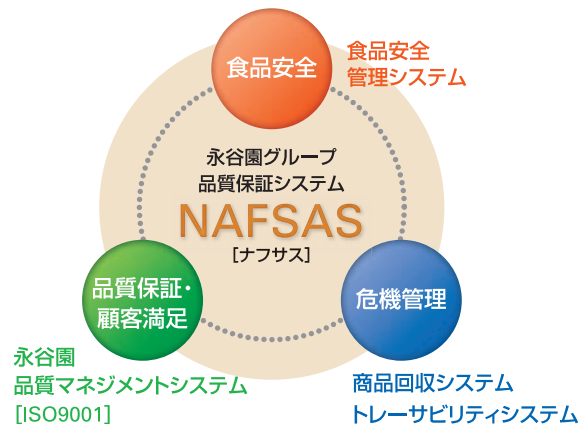
# 私たちは、品質保証システムである「NAFSAS(ナフサス)」を運用することによって、安心してお召しあがりいただける安全な商品であることを保証しています。

## NAFSAS (ナフサス)とは?

「NAFSAS」(以下、ナフサス)とは、2009年に制定した永谷園独自の品質保証システムの呼称※1で、「品質保証・顧客満足」「食品安全」「危機管理」の3つの柱から成り立っています。これらは、永谷園全部門で取得している「ISO9001」に、食品の安全性確保のための「ISO22000」※2の考え方を取り入れ、さらにトレーサビリティシステム、商品回収システムを有機的に複合させて構築しました。

永谷園は、グループ全体で「ナフサス」にもとづいた管理・運営を行うことで、より高い品質で、安全な商品づくりを目指しています。

### ●永谷園グループ品質保証システムの概念



#### ※1 NAFSAS(ナフサス)

永谷園味ひとすじ食品安全保証システム (Nagatanien Ajihitosuji Food Safety Assurance System)の頭文字をとったもの。

#### ※2 ISO22000

工場を中心として運用するHACCPの手法に、管理体制の維持や継続的な改善を行うISO9001の手法を加えた、会社組織全体で食品の安全性を確保していくシステムについての国際規格です。

## 2つの連絡会

ナフサスをより向上させていくためのツールとして、「品質保証連絡会」と「品管連絡会」という2つの重要な「連絡会」を実施しています。

### ●品質保証連絡会

お客様の要望や社会の情勢に対して迅速かつ適切に対応していくための活動として、月に1回「品質保証連絡会」を実施しています。

日々お客さまからいただくお申し出内容は、社長をはじめ全部門に配信され(個人情報を除く)、商品の開発や改善などCS活動へ有意義に活用しています。

「品質保証連絡会」ではこの貴重なお申し出内容を月単位で集計してリスク評価し、対応が急務であると判断した案件について、商品の企画から販売までの関連部門で検討を行い、改善へと結びつける活動を行っています。

同様に、食品安全に関する時事ニュースについても関連部門で情報を共有し、企業としての対応方針を決定しています。

本会の出席者は各部門の管理職としています。これにより、取組みに向けた決裁をその場で行うことができ、課題に対して迅速に対応することができます。

また、毎月定期的で開催することで、取組み内容の進捗状況もしっかり確認できるしくみとなっています。

品質保証連絡会



### ●品管連絡会

事故防止のための情報交換や水平展開の場として、グループ企業の工場や関連部署の担当者を召集して定期的に「品管連絡会」を実施しています。

永谷園の商品は、グループ企業の工場の他、多くの協力工場で生産されています。商品の安全・安心に最も直接的に関わっているのは生産現場である工場です。

工場で安全・安心が約束された商品を継続的に作り続けるためには、様々なルールを適切に運用していくことが重要となってきます。

この「品管連絡会」は、自社工場とグループ工場の品質管理部門をはじめ、協力工場を統括している生産事業本部など、生産に関わる関連部門から構成されており、工場における管理手法について検討を行うことで工場間によるばらつきをなくし、様々なルールへと反映させています。

また、全国にある工場のメンバーが一同に会する機会でもあるため、普段電話で行う声だけのやりとりと異なり、顔を合わせながら肩ひじ張らずにコミュニケーションを図ることができます。

このようにして、検討事項の解決改善へ着実に取り組むのと同時に、全社協力し、品質管理レベルの向上に努めています。



## 信頼ある表示(キャッチコピー)を

ナフサスでは、お客さまに安全な商品はもちろん、表示についても確かな商品をお届けするために、商品パッケージの表示(キャッチコピー)については、その根拠があるかを確認しています。

なかでも、近年食品の表示の産地偽装事件が後を絶たないことを受けて、商品パッケージに産地やブランドなどをキャッチコピーとして表示している商品については、対象になる原材料に関して、永谷園独自の「特色のある原材料に関するルール」を適用し運用することで管理しています。

このルールには、DNA検査による科学的証明、各種証明書の取得、現地視察における伝票や製造記録表の確認だけでなく、供給能力、経営方針の確認、および想定外の増産になった場合の対応など、偽装に巻き込まれないためのリスク回避対策を盛り込んでいます。

新規原材料採用時はもちろん、既存原材料にもこのルールを適用しキャッチコピーの根拠の確認を行い、お客さまから信頼していただける確かな商品を提供していきます。

### 対象項目

原産地・製造地  
品種名・銘柄名・ブランド名・商品名  
非遺伝子組換  
有機・特別栽培  
アレルギー物質不使用



和風麻婆豆腐 黒豚みそ味 中辛(パッケージ)

信州限定野沢菜茶づけ(パッケージ)

A-Labelカレー ボーク甘口(パッケージ)

### VOICE 帳票など書類を チェックします

永谷園 生産管理部  
呉島 弘美



原料メーカーから特色のある原材料についての証明書や検査結果などを定期的に提出してもらい、内容を確認しています。

例えば、輸入している非遺伝子組換え作物関連の帳票では、種子、栽培、収穫、輸送、使用されるまでの識別、管理がなされているかをチェックします。

外国語での帳票も多く苦勞していますが、それぞれの内容を慎重に確認しています。



書類審査風景

### TOPICS ふきとり検査

アレルギー配慮商品で使用する原料の製造工場では、「原料の不正使用やコンタミネーション※はないか?」「洗浄は的確に行われているか?」を確認するため、アレルギー検査をする必要があります。生産ラインの一部をふきとり、サンプリングします。ふきとったサンプルについては、アレルギー物質が含まれていないかを検査確認しています。



ふきとり検査  
(サンプリング)  
風景

#### ※ コンタミネーション

コンタミネーションとは「意図せぬ混入」という意味で、本来混入するはずのない物質が混入した場合の表現として使用されることが多い単語です。

# お客さまに満足していただける会社を目指します。

お

客さま ひとりひとりに 満足を

[品質保証部] 青山 卓也



## 「お客さまの声」からの改善活動

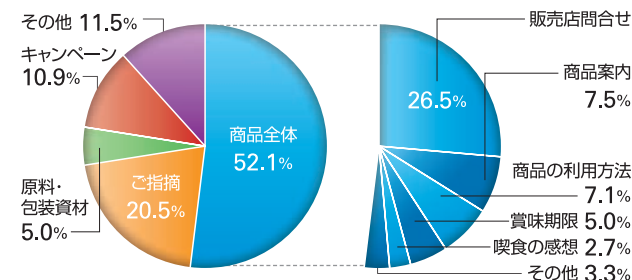
永谷園では、お客さまからの貴重なお申し出を受け、商品やサービスなどに役立てて、より満足していただきたいと考えています。そのために、「お客様相談室」が窓口となり、お客さまとの良好なコミュニケーションづくりを心がけています。また、お客さまからのお申し出をしっかりと聞き、一つ一つの内容について、迅速かつ正確にお応えするよう心がけています。

お客さまから日々いただく貴重なお問い合わせ・ご指摘は社内のデータベースに登録し、「お客さまの声」として社長も含め全部門へ毎日配信（個人情報を除く）され

ています。また、「お客さまの声」の活用として、集計したデータをもとに分析を行い、「品質保証連絡会」として関連部門と定期的に検討するしくみを実施しています。お客さまに満足していただける品質やサービスについて、「お客さまの声」をもとに改善を検討しています。

2009年度には、年間で約19,500件のお申し出となりました。今後もお客さまからいただく「お声」を一つひとつ大切にして、商品の開発や改善などに役立てていきたいと考えています。

### ●お申し出内容



- お客さまからご提供いただいた個人情報は、個人情報に関する法令等を遵守し、管理・保護しています。
- 「お客さまの声」にはお客さまの個人情報は記載されていません。

## 商品改善の事例(2009年度)

### ●「戦隊カレー」の品質を温めなくてもおいしい品質へ変更

従来からお弁当用のキャラクターカレーについては、温めなくてもおいしい品質としていましたが、「戦隊カレー」についても同様なご要望があったことから、「天装戦隊ゴセイジャーカレー」（ポークあまくち、野菜コーンあまくち）についてもラードをパーム油へ変更することで、温めなくてもおいしい品質へと変更し、使用用途の幅を広げました。



天装戦隊ゴセイジャーカレー  
野菜・コーンあまくち



天装戦隊ゴセイジャーカレー  
ポークあまくち



裏面表示の一部

### ●アレルギー物質一覧表の追加

この商品では、食物アレルギーをお持ちの方へのご案内として、アレルギー物質を一覧表で表示して、色分けをすることで、使用の有無がひと目で分かるようにしています。

## VOICE お客さまと会社の架け橋として

永谷園 品質保証部  
青山 卓也



お客さまからいただくお申し出内容は非常に貴重なものだと思います。お客さまからの貴重な声を商品などに反映するため、お客さまと会社の架け橋として、他部門にいろいろと提案などを投げかけたりしています。また実際にお客さまの声をお聞きするスタッフがお客さまとのコミュニケーションを構築していくために、様々な工夫をしてよりよい職場環境を設定していきたいと考えています。お客さまと会社それぞれが良い関係で、お互いが幸せになれることを目指しています。

日々身も細る思いで仕事しているつもりですが、実際には細っていないのが悩みです。家に帰った後や休日にも子どもと遊ぶのが楽しみです。

# 幅広いステークホルダーとの コミュニケーションを大切に考えます。

ま

た買おう！ そう思われる 商品を

[品質保証部] 菊池 祥子



## 株主さまとの関係

永谷園グループは、グループの企業倫理に関する基本方針である「企業行動指針」において、「ステークホルダーの立場を尊重し、長期的な信頼関係を築き、企業の発展につなげていく」と規定しており、なかでも株主さまに対しては、さらなる信頼関係を築くために、事業活動にかかわる情報を適切かつタイムリーに提供することを心がけています。また、永谷園および永谷園商品に対する息の長いファンであってほしいという願いのもと、2002年度から株主優待制度を導入しており、今後さらに充実を図っていきます。

### ●事業のご報告

定時株主総会終了後（毎年6月）と第2四半期決算発表後（毎年12月）に株主さま宛に事業活動の状況を記載した「事業のご報告」をお送りしています。



第57期  
事業のご報告

### ●株主優待

2010年3月31日現在、永谷園株式1単元（1,000株）以上ご所有の株主さまに、3,000円相当の永谷園商品詰め合わせを6月上旬に贈呈しています。



株主優待の商品詰め合わせ例  
(内容は毎回異なります。)

## 情報コミュニケーション ～永谷園ホームページがより使いやすく、さらにモバイルサイトも開設～



### ●ホームページのURL

<http://www.nagatanien.co.jp/>



2009年9月、永谷園ホームページをリニューアルしました。アレンジレシピでは使用したい永谷園商品、食材などで検索できるようになりました。また、2010年4月にはモバイルサイトも開設。手軽により楽しく、より深く永谷園グループをご理解いただけるようになりました。



モバイルのQRコード

## VOICE 永谷園をより理解して いただくために

永谷園 広報部  
阿茂瀬 正和



永谷園は、お客さまあつての会社です。今回、永谷園ホームページをお客さまの目線で「使いやすい」「楽しい」「また見たい」と思っていたかのように変更しました。

既存のコンテンツをブラッシュアップし、さらに「永谷園ファン」「メールマガジン」「モバイルサイト」などの新規企画の導入では、手探りな面が多かったのですが、お客さまにとってより身近で親しみを持っていただける内容になるよう、努めました。

今後は永谷園ホームページを通して、お客さまにアイデア、レシピなどの投稿や感想をお寄せいただくなどコミュニケーションの場を提供することによって、永谷園ファンが増加してくれればと思っています。

# 従業員が健康で働きやすい職場環境を作ります。

お

互いに声をかけ合い 事故防止

〔株式会社 花笠食品〕 佐藤 利恵



## 働きやすい職場づくり

従業員がゆとりある生活を実現できるように、所定外労働時間の削減および年次有給休暇取得の促進に取り組んでいます。2007年度より導入した「半日単位の年次有給休暇制度」および「ノー残業デー」、2009年度より導入した「家族団らん休暇\*」も社内で浸透しています。

### ※ 家族団らん休暇

従業員およびその家族（1親等まで）の誕生日または子（中学生以下）の入卒園（入学卒業式）出席等を対象事由として、年2日を限度として取得できる休暇。



### VOICE うれしい 家族団らん休暇！

永谷園 経理部  
尾藤 香理(写真左)



私は一人暮らしのため、家族と一緒に過ごす時間が少なく、今までは母の誕生日と一緒に出かけたいと思っても、その日が平日では「また今度、あらためて・・・」とあきらめなければなりません。

しかし、家族団らん休暇のおかげで気兼ねなく家族の誕生日を祝うことができるようになり、家族と会える時間が増えました。親子で過ごす一日は楽しくて、あっという間に終わってしまいますが、「また明日から仕事をがんばるぞ！」という気持ちになり、よいリフレッシュになります。次の家族の誕生日が待ち遠しいです。

### VOICE 家族団らん休暇の 過ごし方

永谷園 統括部  
川岸 直人



導入初年度は、次女の小学校入学式と授業参観出席のために取得しました。平日は子どもとゆっくり話すことができませんが、このようなイベント時にゆっくり子どもと過ごし、子どもの成長を見守ることができるのは大変うれしい限りです。後日、「来てくれてありがとう」と子どもに感謝してもらったときは、取得してよかったな、と思いました。

これからも、家族団らん休暇を活用して、家庭と仕事の両立を図っていききたいと思います。

## 新型インフルエンザ対策

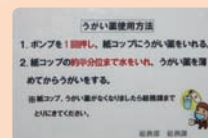
メキシコで発生した新型インフルエンザは、2009年5月に日本国内でも感染が確認されました。永谷園では「新型インフルエンザ対策マニュアル」を制定するとともに、全従業員へのマスクの配布や国内感染情報の通知など、感染防止を徹底しました。

また、家庭内での感染拡大防止のため、マスクやアルコール消毒液の社内販売を実施し、本人や家族が罹患した場合の療養・介護のための特別休暇（予防休暇）を設けました。

現在も引き続き、建物内に消毒液やうがい薬を設置し、感染防止に努めています。



設置しているうがい薬



うがいの喚起



家族向けに販売した  
感染防止セット

### VOICE うがい手洗いの習慣

永谷園 総務部  
見付 善行



子どもの頃は「外から帰ってきたら、うがい手洗いをしなさい」と両親からつけられていたものの、大人になってからはほとんどしていませんでした。今回、会社から新型インフルエンザ感染状況の猛威を知らされ、うがいや手洗いをするようになると、それが習慣として身につくにつれ、現在までインフルエンザに感染することもなく万全な体調で仕事ができています。



### 地域社会と次世代の発展のために

#### 体験学習・職場見学の実施

永谷園岡山事業部や(株)花笠食品では周辺地域からの要請を受け、職場体験などを実施。また、永谷園本社では全国各地からの職場訪問の要請に対応するなど、各地で永谷園グループの理解促進を図っています。今後も将来を担う世代の育成、社会への貢献を考え、積極的に取り組んでいきます。



職場体験[(株)花笠食品]



職場見学[永谷園本社]

#### 周辺地域の美化清掃活動

永谷園岡山事業部、(株)オクトス、(株)花笠食品の各事業所では、エコチームが中心となって周辺地域の清掃を行い、周辺地域の美化活動に取り組んでいます。



美化活動[永谷園岡山事業部]



清掃活動[(株)花笠食品]

#### A-FREE 委員会の活動

A-FREE 委員会\*は永谷園グループの横断的組織であり、食物アレルギー配慮商品に対する認知や理解を深めていただくため、様々なイベントに参加しています。

その一つとして、「第27回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会」(主催：日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会)において、ブースを出展し参加者の方に理解を深めていただきました。



出展ブース

#### \*A-FREE 委員会

食物アレルギーに配慮した商品にかかわる問題を検討する社内委員会。お客さまに安心してお召し上がりいただける安全な商品づくりに取り組んでいます。

#### VOICE 「12歳のハローワーク」を実施して

(株)花笠食品 外記 和子



(株)花笠食品では、地域(山形県酒田市)小学生の総合的な学習の一環として、地域の産業や特色を学習する目的により小学生の職場訪問を受け入れています。

小学生の中には祖父母から、「昔からこの地域で焼き麩が作られていた」ことを聞いたという子どもたちもいました。実際に仕事をしている様を見学した子どもたちは「物づくりの大変さ」「衛生管理の大切さ」など、貴重な体験を学ぶことができたようです。また、従業員も小学生の質問に分かりやすく丁寧に答えていました。

地域社会への貢献に今後も積極的に取り組んでいきます。

#### VOICE A-FREE 委員会の活動を通じて

永谷園 品質保証部 新井 香



A-FREE 委員会の活動を通じて、実際に食物アレルギーをお持ちでいらっしゃる方の団体などをはじめ熱心に取り組まれている関係者の方々から、弊社商品へのご指摘や感謝の言葉をいただきます。ご指摘などはご苦勞や現状を知るきっかけに、そして感謝の言葉は大きな励みとなっています。

このようなお声をいただくたび食物アレルギー配慮商品の存在意義を感じ、作り手として身の引き締まる思いがします。これからもお客さまの声に耳を傾け、社内に届けていきたいと思ひます。

# 「環境基本方針」のもと、 環境保全活動に取り組みます。

無

理をせず 楽しみながら エコライフ

[茨城事業部] 鈴木 貴之



## 環境基本方針

「環境基本方針」は、企業理念である「味ひとすじ」の考えにもとづいて、環境に関する取組みに対しての永谷園グループの姿勢・決意を宣言したものであり、「環境理念」と「行動指針」で構成されています。

また、「行動指針」は「永谷園グループ倫理綱要」の「企業行動指針」の一つに制定され、永谷園グループの企業倫理に関する基本方針として社内に周知されています。

## 永谷園グループ 環境基本方針

### 環境理念

永谷園グループは、「味ひとすじ」の企業理念のもと、お客さまに満足していただける商品・サービスを提供するとともに、社会の一員として地球環境保全の大切さを理解し、環境に配慮した企業活動に取り組み、幸せで豊かな社会づくりに貢献します。

### 行動指針

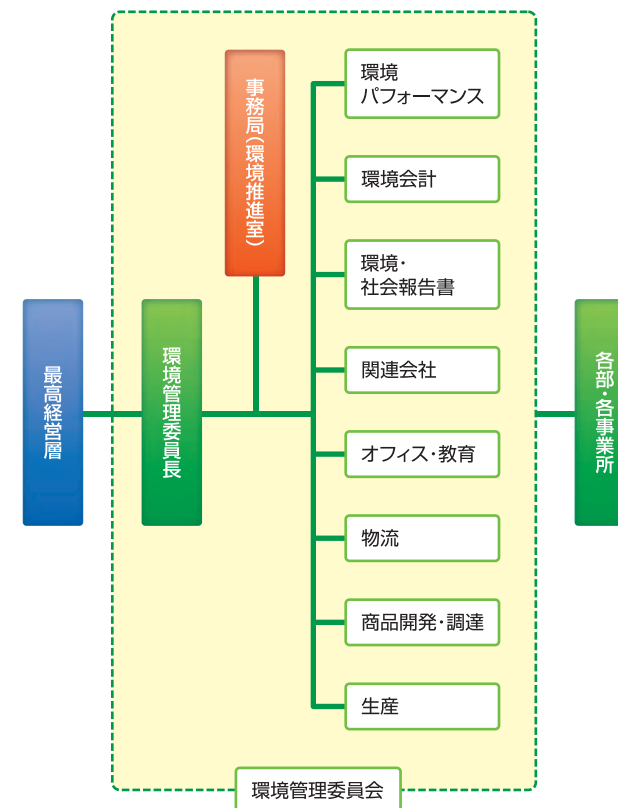
- ① 永谷園グループは環境に関する法令などの遵守はもとより、環境保全を推進していくための体制を構築し、地球環境への負荷軽減に継続的に取り組みます。
- ② 環境保全に配慮した開発・生産に取り組み、「環境に負荷の少ない商品・サービス」を社会に提供します。
- ③ 廃棄物の削減、リサイクルの推進および省資源・省エネルギーに努め、目標を掲げ「環境問題へ真剣に取り組む事業所」を目指します。
- ④ 社員一人ひとりが前向きに環境問題を考え、「環境問題へ真剣に取り組む社員」としての誇りを持ちます。

「環境理念」は永谷園グループが環境にどう取り組んでいくかという会社の姿勢を宣言し、「行動指針」は「環境理念」を実現していくための具体的内容を定めたものです。

## 環境保全活動推進体制

永谷園グループでは、「環境基本方針」のもとで環境保全活動を推進するために、環境管理委員会を設置しています。環境管理委員会は、環境管理委員長、生産拠点のメンバー 6名、事務系部門のメンバー 18名、事務局 4名の合計 29名で構成され、環境経営の維持・向上を効果的に進めています。また、環境法の遵法についても、関連する部門のメンバーを中心に的確に対応しています。

### ●環境保全活動推進体制





# 環境データを分析し、 可能な限り負荷を軽減します。



の暑さ うちわふりふり 汗が出る

[株ニシエイ] 志摩 秀夫



## 環境負荷の分析

永谷園グループでは、事業活動(生産活動)と環境へのかかわりについて、環境への負荷を「INPUT」から「OUTPUT」までの流れに沿って分析をしています。



# 中期目標に向けて持続的に活動します。

## 2009年度結果

実施項目	具体的取組み	2009年度	
		達成状況	自己評価
地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量削減	2001年度対比5.9%の増加。	×
廃棄物削減	排出量削減	2001年度対比18.5%の削減。	○
	再資源化率向上	88.4%に向上。	◎
	食品リサイクル率向上	78.9%に向上。	◎
省資源	水使用量削減	2001年度対比21.3%の削減。	○
	OA紙使用枚数削減	2001年度対比2.6%の削減。	△
グリーン購入	グリーン購入比率の向上	62.1%に向上。	○
商品	容器包装に関する取組み	軽量化減量化を継続的に実施した。	◎
		環境配慮型の包装資材を使用した。	◎
環境管理体制	環境マネジメントシステムの運用	内部監査にて各拠点でのシステムの定着を確認した。	◎
	非生産拠点への環境意識の向上	社内報などを通して、個人のできる環境活動を紹介した。	◎
	環境会計	効果の検証を行うために、情報収集を行った。	◎
環境コミュニケーション	環境・社会報告書	これまで通り、環境・社会報告書として発行する。	◎
環境教育	環境教育の実施	年5回実施した。	◎
		社内報で環境レポートを9月までは毎月、10月以降は隔月で掲載した。	◎

・CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物排出量、水使用量、OA紙使用枚数は、2001年度を基準年とした総量で削減目標を管理しています。  
 ・食品廃棄物の目標は、改正食品リサイクル法の対象となる再資源化等の実施率で目標を設定しています。

- 自己評価基準 ◎：目標を達成した。  
 ○：目標達成には至らなかったが、着実に削減・向上している。  
 △：削減・向上の傾向にあるが、取組みが不十分。  
 ×：増加・低下の傾向にある。

## 2012年度中期目標・2010年度目標

実施項目	具体的取組み	中期目標(2012年度)	2010年度
地球温暖化防止	CO <sub>2</sub> 排出量削減	3%削減する。	1%削減する。
廃棄物削減	排出量削減	3%削減する。	1%削減する。
	再資源化率向上	92%以上に向上する。	90%以上に向上する。
	食品リサイクル率向上	80%を維持向上する。	80%以上に向上する。
省資源	水使用量削減	9%削減する。	5%削減する。
	OA紙使用枚数削減	5%削減する。	3%削減する
グリーン購入	グリーン購入比率の向上	75%以上に向上する。	65%以上に向上する。

・CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物排出量、水使用量、OA紙使用枚数の目標は、2009年度を基準年とした売上金額(OA紙使用枚数は従業員1人)あたりの原単位の削減目標比率になっています。  
 ・食品廃棄物の目標は、改正食品リサイクル法の対象となる再資源化等の実施率で目標を設定しています。



## 2009年度結果と中期目標(2010～2012年度)の設定

### 2009年度結果の分析

#### ● CO<sub>2</sub>排出量の増加

基準年である2001年度に比べCO<sub>2</sub>排出量の総排出量は削減できなかったものの、売上金額あたりの排出量は削減しました。また、同じエネルギーを得るために発生したCO<sub>2</sub>排出量は14.1%の削減となり、エネルギー効率は着実に向上しています。

#### ● 品質向上に伴う環境負荷

近年、より高い品質を確保するために目標達成が難しくなった項目があります。不適合品の基準を厳しくする(廃棄物排出量増加)、衛生面を確保する(水使用量増加)、品質保証システムの強化等記録類の増加(OA使用枚数増加)などです。今後も品質の確保と環境負荷の両方を考慮しながら取り組みます。

#### ● グリーン購入比率

グリーン購入比率は着実に向上していますが、グリーン対象商品がない場合など、全てをグリーン商品にすることが難しく、目標達成には至りませんでした。

### 2010年度目標の設定

#### ● 基準年度

2009年度までは2001年度を基準年としていましたが、この間に生産状況も大きく変わりました。そのため、今回基準年度の見直しを行い、新たに2009年度を基準年として設定しました。

#### ● 目標値

2009年度の結果の通り、生産状況の変化だけでなく、品質確保のために環境負荷が増えている項目もあります。そのため、現状を踏まえた上で、品質を下げることなく環境負荷を減らせるように目標値を設定しなおしました。

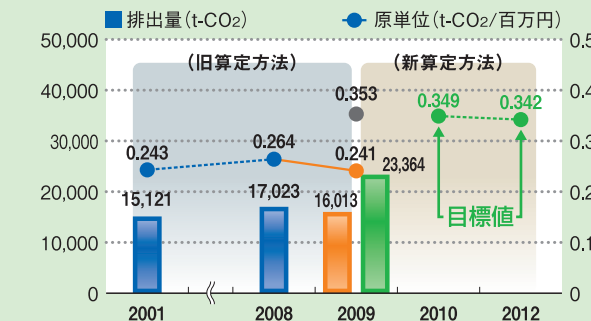
#### ● 原単位管理

これまでは総量での目標管理でしたが、売上金額の増減が環境負荷の増減にも大きく関係していることが判明しました。また、近年は外注工場として自社製品以外の商品を生産していることもあり、売上金額や生産金額など原単位での管理を検討した結果、売上金額(受注生産費用も含む)で管理することに決定しました。

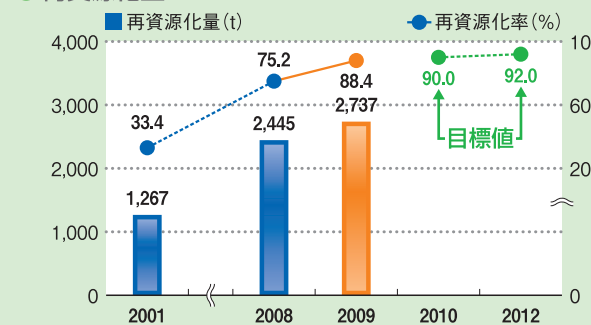
#### ● CO<sub>2</sub>排出量の算定方法

温暖化対策推進法の改正に伴い、電力におけるCO<sub>2</sub>換算係数をこれまでの0.377kg-CO<sub>2</sub>/kWhから電気事業者別の係数に変更しました。また、換算係数の変更とともに、対象組織も変更しています。(P5「環境パフォーマンス対象組織」参照)

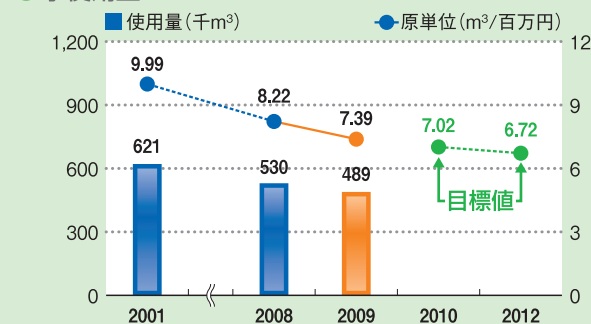
#### ● CO<sub>2</sub>排出量



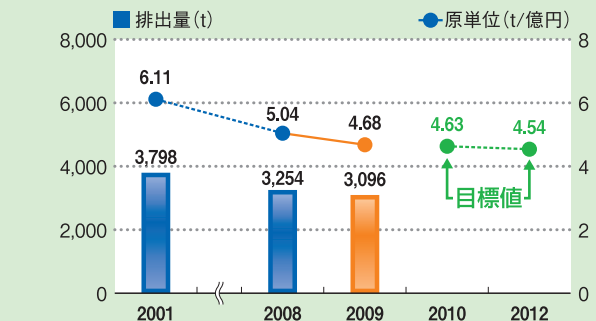
#### ● 再資源化量



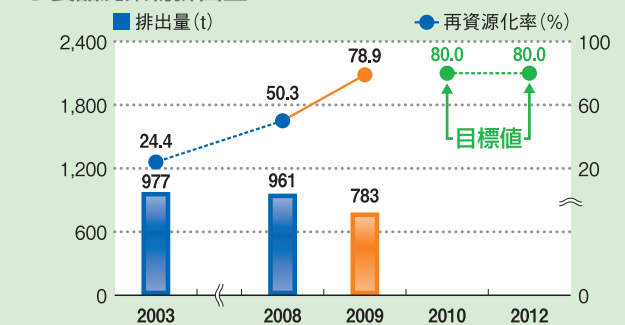
#### ● 水使用量



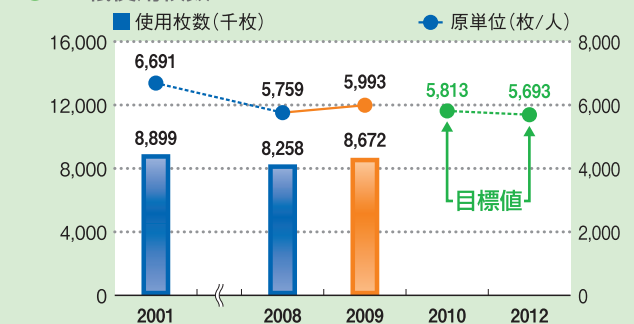
#### ● 廃棄物排出量



#### ● 食品廃棄物排出量



#### ● OA紙使用枚数



# 永谷園グループの地球温暖化防止への取組みは、CO<sub>2</sub>削減から始まります。



暖化 防ぐ気づかい 思いやり

〔株〕サンフレックス永谷園 先崎 清彦



## 地球温暖化防止への取組み

(株)オクトス

### 食品産業 CO<sub>2</sub>削減大賞受賞

2008年度にボイラー\*1の燃料をCO<sub>2</sub>排出量の多い灯油から排出量の少ない都市ガスに転換しました。これによりボイラーの使用に伴い発生するCO<sub>2</sub>排出量を20%削減できたことが評価され、2009年度の食品産

#### VOICE 優良賞を受賞して

(株)オクトス  
松井 誠



(株)オクトスでは、ドライ商品やレトルト商品の生産に使用する熱を、ボイラーで発生させています。

今回のボイラー入れ替えでは、コストやメンテナンスだけではなく環境対策も含めて検討した結果、以下の特徴のある機種を導入しました。

- 燃料を灯油から二酸化炭素排出量が少なく発生熱量の高い都市ガスへ転換
- 点火・消火回数の少ない燃焼効率の良い機種を選定（燃焼前後に炉内の可燃性ガスを排出する必要があり強制換気するため温度が下がる）
- ボイラーの腐蝕を防ぐための酸素除去装置の設置  
これにより、昨年度対比でCO<sub>2</sub>排出量を21%削減し、燃料購入金額を20%削減することができました。今後も、引き続き設備の改善や社内啓発活動を行い、環境活動を推進していきます。

業CO<sub>2</sub>削減大賞(優良賞)を受賞しました。

食品産業CO<sub>2</sub>削減大賞は、農林水産省補助事業/ (株)日本総合研究所主催の表彰です。CO<sub>2</sub>をはじめとする温室効果ガス削減に対する意欲の増進と、優良事例の食品産業界での普及を図ることを目的としています。食品製造業、食品流通業、飲食店を営むものが実施した温室効果ガス排出削減の優良な取組みを対象としたものです。

#### ※1 ボイラー

ボイラーとは、水などの液体を加熱することで蒸気や温水を作る機械です。食品の製造には加熱・乾燥など多くの熱を必要とする工程があり、永谷園グループ各工場で使用しています。



賞状



授賞式

(株)サンフレックス永谷園

### 熱効率の良いボイラーに入れ替え

工場で使用するボイラーを、従来のものと比べて熱効率が良いタイプのものに入れ替えました。熱効率が良くなることで、燃料であるA重油の使用量と、その燃焼に伴い発生するCO<sub>2</sub>排出量、大気汚染物質であるNO<sub>x</sub>(窒素酸化物)やSO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)の排出量など、それぞれ2008年度対比12%削減することができました。

永谷園 岡山事業部

### オイルフリーインバーター式 エアークOMPRESSORの導入

これまでのノーマルタイプコンプレッサーを主軸に、不足分のエアを新たに導入したインバーター式コンプレッサー\*2で補う方式を採用したことで、運転効率が高まり大きな電力使用量削減につながりました。

また、全機オイルフリー(潤滑油を使用しない)にしたことと、工場内すべてのエア配管をステンレス化したことにより、さらに食の安全性が高まりました。

#### ※2 コンプレッサー

空気を圧縮する装置で、空気圧を作り出すことができます。インバーター式のもの、空気の圧力によってモーターの回転数を直接コントロールするため、ムダな電気を使うことなく効率的に運転ができます。

### TOPICS 電気を使うとCO<sub>2</sub>が増える

日本では、電気を使うと地球を温める効果のあるCO<sub>2</sub>が発生します。それはなぜでしょうか？

日本の電気は、主に火力、原子力、水力発電によって作られています。原子力発電や水力発電によるCO<sub>2</sub>排出量は少ないものの、それぞれの発電量は限られています。そのため、原子力発電で足りない分は、石炭や石油を使った火力発電で調整されています。

石炭や石油は、燃やす時にCO<sub>2</sub>を発生させるエネルギーです。そのため、電気を使えば使った分だけ火力発電量が多くなり、それに伴いCO<sub>2</sub>の排出量も多くなります。

CO<sub>2</sub>排出量削減のためにも、一人ひとり節電に取り組みましょう。

# 限りある水資源をムダなく使用します。



資源 あると思うな いつまでも

[岡山事業部] 益田 敏文



## 物流部門での取組み

### CO2排出量削減への取組み

2009年度も2008年度に引き続き、輸送に伴うCO2排出量の削減に努めました。

具体的な施策として、これまで1拠点で生産していた煮込みラーメンを全国2拠点で生産することにより長距離輸送量を削減しました。また、福島県いわき市で生産している麻婆春雨を岡山倉庫へ運搬する際、以前は間にある倉庫を経由して運んでいましたが、直接配送することで輸送距離を削減しました。その結果、生産工場および倉庫間の輸送量を、売上金額あたりで2008年度対比2.7%削減することができました。

2010年度も引き続き鉄道利用などのモーダルシフト※1を検討し、CO2排出量の削減に取り組めます。

#### ※1 モーダルシフト

貨物輸送の方法をトラックから環境負荷の低い鉄道・船舶などへ転換することです。

### 省エネルギー法の対応状況

2009年度の輸送量は3,025万トンキロ※2となり、2008年度対比100.3%に増加しました。省エネルギー法により、年間の輸送量が3,000万トンキロを越える荷主(事業者)は、省エネルギー計画の策定やエネルギー使用量等の定期報告が義務づけられています。永谷園は2008年度から報告の対象となっており、計画書および定期報告書を提出しています。

#### ※2 トンキロ

何トン(重さ)のものを何キロ(距離)輸送したかという輸送量を表す単位。

## 水資源保護への取組み

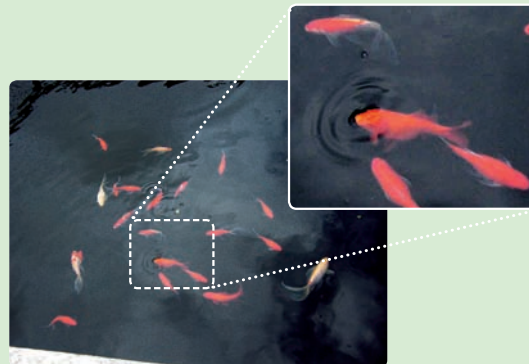
### (株)花笠食品

#### 解凍用の水使用量の削減

麩の原料である冷凍グルテンを、乾燥粉末状の「バイタルグルテン」に変更しました。従来の冷凍グルテンでは解凍するために水道水を使用していましたが、バイタルグルテンは解凍が必要なくなり、この工程に伴う水使用量が変更前に比べて15%削減できました。2010年度の水使用量(総量)は、2009年度対比で20%以上削減できる見込みです。

### TOPICS 排水で金魚を飼育 (株)花笠食品

花笠食品では、排水を浄化槽で処理し、常にきれいな水質を維持しています。その水質の良さは、金魚が生息できるほどです。飼い始めたときはいわゆる一般的な大きさの金魚でしたが、今では鯉のように大きく成長しました。



### 永谷園 茨城事業部

#### 設備変更による削減

流動層乾燥機の入れ替えを行う際、洗浄効率を考慮して選定しました。この結果、洗浄時間が従来のものから大幅に短縮(15分→5分)でき、水使用量の削減にもつながりました。

#### 漏水防止による削減

茨城事業部では工業用水と上水(水道水)の2種類の水を使用しています。工業用水は使用できる量が毎月決まっており、工業用水が漏水するとその分を水道水で調整していました。

2009年度にはこの漏水を防止する工事を行い、確実に工業用水を使用できるようにしたことにより、水道水の使用量が削減できました。

設備変更および漏水防止工事により、2009年度の水使用量(総量)は2008年度対比2.1%削減することができました。

# 分別を徹底し、廃棄物の削減とリサイクルを推進します。



ユース・リデュース・リサイクル 地球にやさしい  
合言葉

〔株式会社花笠食品〕 高橋 境子



## 廃棄物削減への取組み

### (株)オクトス

#### 装置の見直しによる削減

お茶づけやふりかけのような乾燥している商品の生産工程では、装置を使って重量や入り数など不良品がないか確認しています。この装置で検出されるものの中には誤作動による良品も含まれていたため、より精度を上げるため見直しを行いました。この結果、誤作動による不良率を13%から9%まで減少させることができました。

#### 保管や輸送に伴う資材による削減

商品の中身の原材料を混合する工程の中で、一時保管するための資材としてポリ袋を使用しています。従来はこのポリ袋を1回使用することにより廃棄していましたが、数回使用することにより廃棄物の削減につながりました。

また、原材料の輸送時などに使用していた資材を、ダンボールから繰り返し使用できるタンクに変更することで、廃棄するダンボールの量を2008年度対比15%削減しました。



ダンボール



タンク

### 永谷園 岡山事業部

#### リサイクル方法の見直し

廃プラスチック類の廃棄物は、以前からサーマルリサイクルをしていましたが、2009年度からはRPF固形燃料とするマテリアルリサイクルを始めました。RPF固形燃料は安定した品質であり、必要に応じた時に必要な分だけエネルギーとして使うことができます。また、リサイクル施設も近くなり、廃棄物の輸送距離削減にもつながりました。



リサイクルされる前の廃棄物



RPF 固形燃料

#### TOPICS RPF 固形燃料

RPF 固形燃料は、“Refuse Paper & Plastic Fuel”の略で、古紙や廃プラスチック類の廃棄物を固めてリサイクルした燃料です。

商品を包装する時に発生する端材の部分は、紙とプラスチックが貼り合わさっているため、分別してリサイクルすることが困難でした。一方、RPF 固形燃料にするには紙とプラスチックのみの純質な材料が必要で、包装時の端材はこのリサイクルに適していました。

廃棄物をリサイクルできる上、RPF 固形燃料は石炭などの化石燃料の代替燃料として使用されるため、CO<sub>2</sub>の削減、つまり地球温暖化防止にもつながります。

### (株)ニシエイ

#### ミミズコンポストの促進

以前より取り組んでいるミミズコンポストをさらに促進させるため、ミミズの飼育環境の見直しを行いました。ミミズコンポストは、ミミズに廃棄物(生ゴミ)を食べ物として与えることで、廃棄物の削減と堆肥化ができます。

これまでのミミズコンポストはプラスチック製の容器を使用していましたが、湿度を抑え、廃棄物を腐敗させない木材の容器に切り替えました。ミミズを増やす環境としても適しており、これまでの1基からさらに1基増やし、現在では合計2基でミミズの繁殖と廃棄物の削減・堆肥化を行っています。



ミミズの補充

木製ミミズコンポスト



# 環境配慮型の容器包装へ切り替えています。



ダ包装 CO<sub>2</sub>が 地球を包む

[岡山事業部] 綾井 宣男



## 容器包装への取組み

容器包装の見直しによって、「軽量化」「リサイクルしやすい資材への変更」を実現しました。軽量化により商品の容器包装ゴミを減らすことができ、また、リサイクルしやすい資材の採用でゴミ排出量の抑制とリサイクルされることによる環境負荷の軽減(省資源)につながっています。

### 材質見直しによる包装資材の軽量化

永谷園グループでは、2003年度から包装資材の軽量化を継続的に進めています。2009年9月からは煮込みラーメンの箱の材質を変更し、軽量化を実現しました。

商品の安全性を確認したうえで、使用する紙の斤量(1㎡あたりの紙の重量)を軽いものに変更したことにより、煮込みラーメンの箱1個あたり5gの軽量化となっています。

今後も、資材材質・サイズの見直しを行い、軽量化と廃棄物削減に取り組んでいきます。



### リサイクルしやすい資材への変更

包装資材の軽量化とあわせて、リサイクルしやすい資材への変更を行っています。

2010年1月から、かに玉のBケース\*1をコートボール板紙\*2からダンボール材質へ変更することで、Bケース1箱あたり25gの軽量化を行いました。ダンボール材質はリサイクルシステムが確立されているので、リサイクルしやすくなっています。

#### ※1 Bケース

商品を運搬する際、商品を効率よくダンボールに入れられるよう、区切りの役割をする箱。

#### ※2 コートボール板紙

表面を白く加工仕上げたボール紙。



広東風かに玉



化粧箱(変更前)



化粧箱(変更後)

### アロマフリー型大豆インキの使用

一般に使用されているインキには、環境に負荷をおよぼすといわれている芳香族炭化水素(アロマティックス)を含む石油系溶剤を使用するものがあります。「アロマフリー型大豆インキ」はこの芳香族炭化水素を含まない環境配慮型インキです。

このインキは、「大豆油を配合することによる揮発性有機化合物(VOC)排出量の削減」「印刷した紙をリサイク

### VOICE 品質保持と軽量化への取組み



永谷園 生産管理部  
宇佐美 達也

包装資材には、「安全な商品輸送の確保」と「商品の品質保持」の役割があります。しかし、お店に商品が並び、お客さまが家庭で商品を使用し役割を終えると、包装資材は「ゴミ」となってしまいます。そのため、お店・家庭でのゴミ削減には、包装資材の「軽量化」が必要です。

「商品の安全確保」と「資材の軽量化」というあい反する目的を果たすため、「軽量化への取組み」と「包装資材技術の進歩」を組み合わせ、今後も商品の安全・安心を確保し、資材の「軽量化」(=ゴミ削減)に取り組んでいきます。

包装資材の軽量化は、継続課題として取り組まなければなりません。

ルする際の脱墨性(漂白)の向上」の特徴があり、大気汚染防止や容器包装のリサイクル向上につながります。



ディズニーマジカルゼリー  
いちご味  
© Disney

# オフィス部門でも、 環境負荷低減に取り組みます。

裏

紙が 一番売れっ子 もうないよ

[茨城事業部] 蛭田 三義



## オフィスでの取組み

永谷園グループオフィス部門では、2008年度に引き続き、環境への取組みとして「OA紙使用枚数の削減」「電気使用量の削減」「水使用量の削減」「廃棄物の削減・再資源化」「グリーン購入比率の向上」を実施しました。



分別方法のポスター



分別ボックス

### ●具体的な取組み内容

1	OA紙使用枚数の削減	再生紙の利用、両面印刷、社内文書のペーパーレス化 など	[2008年度対比] <b>7.5% 増加</b>
2	電気使用量の削減	使用後の部屋の消灯、空調の停止 など	[2008年度対比] <b>0.6% 削減</b>
3	水使用量の削減	流しや洗い場での節水 など	[2008年度対比] <b>8.4% 増加</b>
4	廃棄物の削減・再資源化	分別による廃棄物の意識喚起・リサイクル促進 など	●廃棄物排出量 [2008年度対比] <b>10.1% 削減</b> ●リサイクル率 [2008年度対比] <b>5.9ポイント低下(53.0%)</b>
5	グリーン購入比率の向上	グリーン商品の積極的な購入	●事務用品購入金額 [2008年度対比] <b>10.6ポイント向上(62.1%)</b>

2008年度に対して、電気使用量、廃棄物排出量は削減することができましたが、OA紙使用枚数、水使用量は増加してしまいました。OA紙使用枚数は、ISOなどの管理に伴うOA紙の使用の増加によるものと考えられ、水使用量はインフルエンザ対策による手洗い・うがいの増加に

より使用量も増えたことが原因として考えられます。

OA紙は今後より意識して印刷の必要性を考え、削減につなげられるよう取り組みます。また、水使用量も、インフルエンザ対策など必要な水以外の場面で、ムダな使用を削減できるよう取り組みます。

永谷園のオフィス部門では、電気使用量削減の数値目標を掲げて省エネ活動に取り組んでいます。2009年度の電気使用量は、全体で2008年度対比0.6%削減することができましたが、本社では2.7%増加しました。

永谷園では、2009年度より全国にある営業拠点でも電気使用量の管理を始めました。これは、省エネルギー法により、永谷園という事業者としてエネルギーを1,500kℓ(原油換算)以上使用している場合、新たに定期報告や削減計画などの提出が義務づけられるように改正されたためです。

この改正を機に、オフィス部門でもさらに省エネ活動を強化して取り組みます。

### ペットボトルのキャップ収集

オフィス部門での廃棄物削減の一環で、かつ社会貢献につながる活動として、ペットボトルのキャップを集めています。これは、集まったキャップを有価で売却し、その売却益を「NPO法人 世界の子どもへワクチンを 日本委員会」に寄付する活動です。2009年度には、約4万3千個集まり、ポリオワクチン54名分相当の寄付をしました。



キャップ(白)



キャップ(カラー)



# 継続的な改善により、 環境保全活動を推進します。



この道 回り道でも 前進だ

[岡山事業部] 光本 厚美



## 環境マネジメントシステムの維持・向上

永谷園グループの生産拠点(6拠点)にて、環境マネジメントシステムの維持・向上を図っています。この環境マネジメントシステムは、ISO14001に準拠した永谷園独自のシステムです。「永谷園グループ環境マネジメントマニュアル」をシステムの基本として、運用実態にあわせて継続的に改善を図っています。

また、独自のシステムという利点を活かし、本業に即した活動を効率的・継続的に実施するため、各拠点において環境担当であるエコスタッフを中心にルールを作成し、環境保全に取り組んでいます。

## 内部環境監査

永谷園グループでは環境マネジメントシステムの継続的改善のために、内部環境監査を重要な位置づけと考えています。

環境マネジメントシステムを構築した拠点において、2010年2月～3月にかけて内部環境監査を実施しました。監査は、工場間でのクロス監査の方法をとり、単に監査するだけでなく、監査する側・される側の両方が意見交換する場とも考え、より良い改善につながる機会としています。

内部環境監査前には監査員を対象とした教育を実施しました。この教育では講習の他に、ブレインストーミングを用いたグループワークを行うなど、スキルアップを目的とした活動が行われています。

## 環境教育

永谷園では新入社員を対象とした環境教育を実施し、「環境問題」「環境経営」「持続可能な発展」「永谷園グループの環境への取り組み」について講義しました。また、環境マネジメントシステムを構築した拠点では定期的に従業員向けの環境教育(講習会)を実施し、永谷園グループ全従業員へはグループ報を通して環境関連情報を配信することで教育を実施しています。

内部環境監査員やエコスタッフ(環境担当者)には専門的な教育が必要となります。特に近年環境法の改正等が多数あるため、随時情報を共有し、資料などを通して教育を実施しています。



従業員向け教育(楸オクトス)

## VOICE 「環境」を伝えたい 気持ちと伝わる言葉



永谷園 広報部

伊東 慶子

「環境」は頻繁に登場する言葉であるものの、どこか難しいイメージがあり、会社では取り組んでいても家庭では何ができるかわからない、と社内で耳にすることが多々ありました。

そこで、グループ報の環境ページでは、「従業員として必要なテーマ」から「個人としても役立つテーマ」など、毎回様々な切り口から環境の紹介をしています。「環境」は知れば知るほど奥深く、色々伝えたい気持ちもありますが、「難しい」「分からない」などの壁をいかに取り除き、身近で興味深いと感じてもらうか、これからも「伝わる」言葉で伝えていきたいです。



内部環境監査員教育

# 環境経営の推進に伴うコストを管理しています。



一コスト それがそのまま エコ活動

[岡山事業部] 山口 五月



## 環境会計

永谷園グループでは、環境会計の導入により、環境保全活動を推進するうえで必要な経費を管理しています。また、環境保全活動と経費のバランスを考え、環境経営を推進しています。

### ●環境保全コスト

(千円)

環境保全コストの分類		主な取組み	2009年度		2008年度	
			投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト	公害防止コスト ・水質汚濁防止 ・大気汚染防止 等	電動式フォークリフト・ガスボイラー・浄化槽等の導入・維持・管理費 等	2,018	49,518	27,884	53,771
	地球環境保全コスト ・CO <sub>2</sub> 削減 ・省エネルギー 等	コンプレッサーの導入・維持管理費、省エネルギー推進 等	21,426	21,580	9,415	25,019
	資源循環コスト ・廃棄物のリサイクル 等	空冷式空調機、プチスケールの導入・維持管理費 等	30,452	158,386	45,850	179,217
上・下流コスト		容器包装リサイクル法の再商品化委託 等	—	99,159	—	98,288
管理活動コスト		EMS構築・運用、環境教育 等	1,195	51,615	—	43,973
研究開発コスト		環境負荷低減型包装資材の開発 等	—	283	—	449
社会活動コスト		自然保護基金への寄付 等	—	330	—	244
環境損傷対応コスト		該当なし	—	—	—	—
合計			55,091	380,875	83,149	400,963

### ●環境保全活動に伴う経済効果

(千円)

環境保全活動に伴う経済効果		2009年度	2008年度
収益	廃棄物のリサイクル売却収益 (金属くず、古紙、廃プラスチック類、動植物性残さ)	2,722	6,064

※環境保全割合については、簡便な基準による按分集計方法にもとづいて算出しています。  
※千円未満は切り捨てて表示しています。

### TOPICS 環境会計とは

環境会計とは、環境活動(設備投資を含む)のためにどのくらいのコストをかけて、どのくらい効果があったのかを数値化したものです。

**投資額**：企業の償却資産への設備投資額のうち、環境保全を目的とした支出額を計上したものの。

**費用額**：企業の費用のうち、環境保全を目的とした発生額を計上したものの。

### 編集後記

永谷園 広報部  
斉藤 公一



今回の環境・社会報告書は、大幅にリニューアルしました。A4横に見開きにする事で、従来のものからより“ワイド”に永谷園グループの活動をご報告できたのではないのでしょうか？

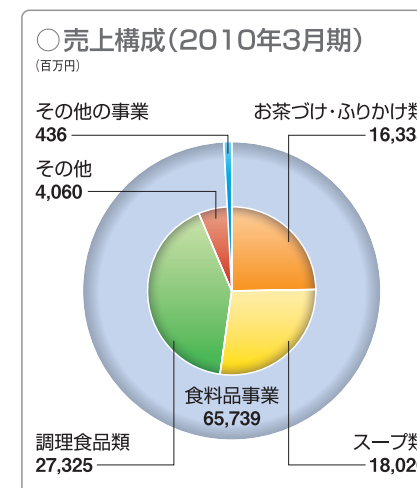
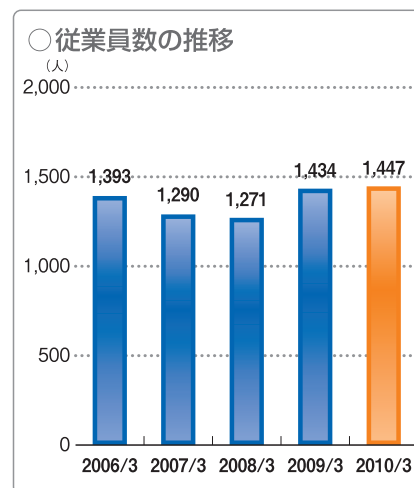
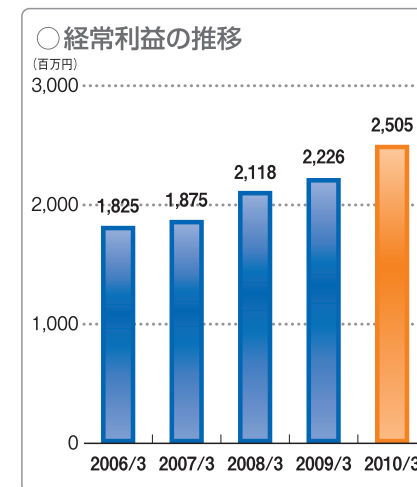
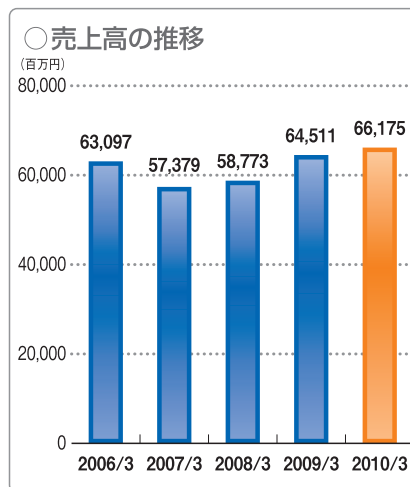
また、今では恒例になっている「CSR川柳」もリニューアルし、これまでの句と作者に加えて作者自身が登場しています。永谷園グループには色々な人が働いていて個性豊かである——一人でも多くの方に感じてもらえれば幸いです。

永谷園グループ各社では、社会的責任を果たせるよう、これからもCSR活動を推進していきます。最新の活動は次回の報告書でご報告いたしますので、次回も是非ご覧ください。

## 会社概要

商号	株式会社 永谷園
創立	昭和28年4月
本社所在地	東京都港区西新橋2丁目36番1号
資本金	35億292万円
売上高	[連結]661億円 [単体]614億円(2010年3月期)
従業員数	[連結]1,447名 [単体]668名(2010年3月末現在)
事業内容	お茶づけ、ふりかけ、即席みそ汁、その他飲食料品の製造販売
TEL	03-3432-2511(代)
工場	茨城工場、岡山工場
支店	仙台支店、東京支店、名古屋支店、大阪支店、広島支店、福岡支店
営業所	札幌営業所、新潟営業所、宇都宮営業所、横浜営業所、静岡営業所、金沢営業所、高松営業所、鹿児島営業所
駐在所	沖縄駐在所
他の事業所	生産業務センター
関連会社	株式会社サンフレックス永谷園、株式会社オクトス、株式会社サニーフーズ、株式会社ニシエイ、株式会社花笠食品、藤原製麺株式会社、株式会社ふじの華、株式会社ユニネット(2010年3月末現在)
ホームページ	<a href="http://www.nagatanien.co.jp/">http://www.nagatanien.co.jp/</a>

## 業績の概要(連結)



※従来「その他」に区分しておりました業務用商品のうち、商品の性質・類似性が認められる商品について、「お茶づけ・ふりかけ類」「スープ類」「調理食品類」に区分変更し、表示しております。  
 ※従来区分表示しておりました「粉商品類」については、金額的重要性が低いため、「調理食品類」に区分を変更しております。  
 ※当連結会計年度より「外食事業」については、事業の縮小に伴い重要性がなくなったため、「その他の事業」に含めております。



お問い合わせ先

株式会社永谷園 広報部環境推進室

〒105-8448 東京都港区西新橋2-36-1  
TEL:03-3432-2519 FAX:03-3432-2528  
<http://www.nagatanien.co.jp/>



この環境・社会報告書は、FSC 認証紙を使用し、VOC (揮発性有機化合物) を含まない大豆インキによる印刷で制作しています。

## 「永谷園グループ環境・社会報告書2010」へのご意見・ご感想をお聞かせください。

このたびは、「永谷園グループ環境・社会報告書2010」をご覧いただきありがとうございました。永谷園グループの活動にはいたらない点もまだ多く、課題も多いと考えております。そこで、今後の活動や次回発行する報告書のために、皆さまから率直なご意見・ご感想をお聞かせください。お手数ですが、アンケートにご回答の上、FAXまたは郵送にて右記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。

**株式会社永谷園 総務本部広報部環境推進室**

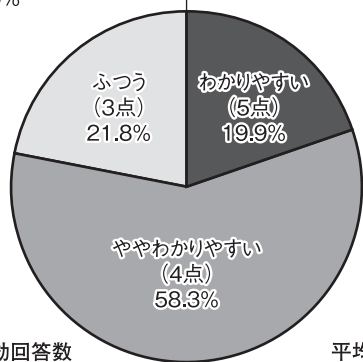
〒105-8448 東京都港区西新橋2-36-1

TEL : 03-3432-2519 FAX : 03-3432-2528

## 「永谷園グループ環境・社会報告書2009」アンケート集計結果

### この報告書のわかりやすさ

ややわかりにくい(2点)、  
わかりにくい(1点)  
0%



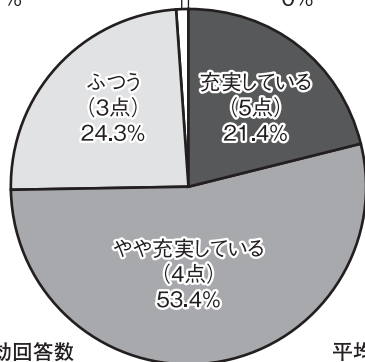
有効回答数  
206件

平均点  
4.0点

### この報告書の記載内容

やや不足している  
(2点)  
1%

不足している  
(1点)  
0%

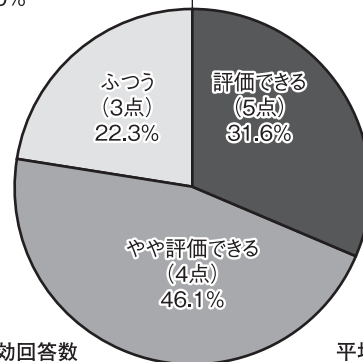


有効回答数  
206件

平均点  
4.0点

### 永谷園グループの取組み

やや評価できない(2点)、  
評価できない(1点)  
0%



有効回答数  
206件

平均点  
4.1点

### 関心を持っていただいた記事・ 印象に残った記事上位項目 (複数回答)

- 1位 廃棄物削減への取組み (48.5%)
- 2位 安全・安心のための品質への取組み (43.7%)
- 3位 地球温暖化防止への取組み (39.3%)

## 「永谷園グループ環境・社会報告書2009」 への主なご意見・ご要望

具体的なイメージがわきにくい。

具体的にイメージができるよう、写真を多く掲載するよう努めました。  
また、より深く内容をご理解いただけるよう、TOPICSやVOICEの掲載数を増やしました。

もう少し文字を少なくし、写真やグラフ・表を多用すれば見やすくなるのではないかと。

2010年度版より、報告書を横の見開きに変更しました。それにより、掲載するグラフや写真を大きくすることで、より見やすくなるよう工夫しました。

「永谷園グループ環境・社会報告書2010」アンケート

Q1 この報告書はいかがでしたか。

わかりやすい ←----- ふつう -----> わかりにくい

5                       4                       3                       2                       1

Q2 この報告書の記載内容はいかがでしたか。

充実している ←----- ふつう -----> 不足している

5                       4                       3                       2                       1

Q3 永谷園グループの環境・社会への取組みについて、  
どのようにお感じになりましたか。

評価できる ←----- ふつう -----> 評価できない

5                       4                       3                       2                       1

Q4 この報告書の内容のうち、関心を持った、あるいは印象に残った項目はどれでしたか。(複数回答可)

- |  |                                    |  |
|--|------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> トップメッセージ／企業理念 | <input type="checkbox"/> 永谷園ニュース   | <input type="checkbox"/> 会社概要／業績の概要        |
| <input type="checkbox"/> マネジメント体制      | <input type="checkbox"/> CSR       | <input type="checkbox"/> コーポレート・ガバナンス／内部統制 |
| <input type="checkbox"/> コンプライアンス      | <input type="checkbox"/> 社会の中で     | <input type="checkbox"/> 安全・安心のための品質への取組み  |
| <input type="checkbox"/> お客様との関係       | <input type="checkbox"/> 株主さまとの関係  | <input type="checkbox"/> 情報コミュニケーション       |
| <input type="checkbox"/> 従業員との関係       | <input type="checkbox"/> 社会貢献      | <input type="checkbox"/> 地球環境のために          |
| <input type="checkbox"/> 環境基本方針／推進体制   | <input type="checkbox"/> 環境負荷の分析   | <input type="checkbox"/> 環境中期目標            |
| <input type="checkbox"/> 地球温暖化防止への取組み  | <input type="checkbox"/> 物流部門での取組み | <input type="checkbox"/> 水資源保護への取組み        |
| <input type="checkbox"/> 廃棄物削減への取組み    | <input type="checkbox"/> 容器包装への取組み | <input type="checkbox"/> オフィスでの取組み         |
| <input type="checkbox"/> 環境マネジメント      | <input type="checkbox"/> 環境会計      |  |

Q5 この報告書について、ご意見・ご要望などご自由にご記入ください。

( )

Q6 この報告書をどのようなお立場でお読みになりましたか。

- お客さま    お取引先    株主・投資家    事業所の近隣にお住まいの方    行政関係    報道関係    NGO／NPO    環境専門家    企業の環境・CSR担当者    学生
- 永谷園グループの従業員・家族    その他( )

ご協力ありがとうございました。お差し支えなければ、下記にもご記入ください。

- 性別    男    女
- 年代    10代    20代    30代    40代    50代    60代    70代以上